

有識者の意見



クレイグ・コンサルティング
代表取締役
おがわ みつお
小河 光生 氏

SDGsとESGがメガトレンドとして経営者に認識され始め、CSRはこれまでとは完全に潮目が変わった、と考えてよいだろう。今やCSRという呼称を用いると、社会貢献的な意味合いが強くなり、かえってこのメガトレンドの本筋の議論の阻害要因になりかねない。経営者がSDGsやESGに着目しているのは、これが将来のビジネスチャンスとビジネスリスクになりうるからである。SDGsに関して言えば、2030年に向かって全世界のあらゆる組織が課題解決に乗り出すテーマであるから、そのまま自社にとってのチャンスを語ることと同義となる。またESGに関して言えば、これに積極的ではない企業には投資が集まらなくなっている。まさに経営者が、自社の中期経営計画にSDGsとESG視点を取り込んでいる理由はここにある。

リケンテクノスが、今年からCSRレポートをサステナビリティレポートに呼称を変え、さらに内容を充実させようと試みているのは、こうした時代背景を先取りしようという意思の表れだと感じている。秀逸なのは、今年から取り組む「新3か年中期経営計画」の主要課題のひとつに「サステナブルな社会への貢献」と明確に謳っていることである。これは、先に述べたメガトレンドを事業計画と一体として把握し、経営戦略としてサステナビリティに取り組もうという経営の意思である。トップメッセージには具体的な活動領域として、気候変動や環境問題への意識を強く持つこと、廃棄・リサイクルを視野に入れた製品開発など化学メー

カーとして責務を果たしていく覚悟が述べられている。その経営姿勢は高く評価できる。

また、新3か年中期経営計画の主要課題をSDGsのテーマと結び付け、自社の事業がグローバルな課題にどのように貢献できるのかを明確にしたことも評価できる。取り組もうとするSDGsのテーマ数がやや多いことは気になるが、こうした取り組みは同社にとって初めてなので、今後具体的に事業戦略との結びつきの中で絞り込まれていくと期待している。

レポートを拝見して、いくつか今後の課題を指摘したい。

第一に「価値創造ストーリー」を作成することにチャレンジいただきたい。投資家がESG情報でもっとも重視するのはこの価値創造ストーリーである。価値創造ストーリーとは、今後同社が強みやビジネスモデルを活用してどのように社会的価値を提供していくのかということである。他の化学メーカーで価値創造ストーリーを明示している企業があるので、そうした企業をベンチマークして作成するのが良いだろう。

第二にサステナビリティで描く将来像を明示して、そこに至るKPI(定量的な目標値)を作成してほしい。新3か年中期経営計画の課題には「あらゆる側面からサステナブルな社会に貢献」とあるが、より具体的に豊かさ、安心、快適を提供していく分野と目標を定量化してステークホルダーにコミットしていきたい。KPIがあれば、目標までの程度の距離があるのかを把握しやすく、また施策に対してもPDCAがかけやすい。

第三に社内浸透に取り組んでほしい。同社は初めてSDGsを取り上げ、新3か年中期経営計画でサステナビリティを設定した。今後は広く社員が自分の言葉でこれらの取り組みを説明できるようにすることが大切である。なぜなら、ステークホルダーに接しているのは社員であり、社員が腹落ちしてしゃべれなければ、ステークホルダーには伝わらないからである。

有識者の意見を受けて

リケンテクノス株式会社 代表取締役 社長執行役員 **常盤 和明**

今回の報告書では新3か年中期経営計画を特集するとともに、SDGsへの取り組みについても具体的に紹介いたしました。小河様のご指摘にある「価値創造ストーリー」については、まさに新3か年中期経営計画の経営方針「More Value to All」そのものであり、全社を挙げて取り組んでまいります。主要課題のひとつである「サステ

ナブルな社会への貢献」については、現場レベルで確実に成果を上げられるようにしてまいります。最後に、社内浸透に関しては、勉強会を開催するなど様々な施策を打ち始めており、引き続き社員への浸透を図ってまいります。

編集後記

新3か年中期経営計画のスタートに合わせ、本報告書より報告書名をサステナビリティレポートといたしました。持続可能な社会の実現に向け、どのような価値をリケンテクノスグループがお届けしているのかをなるべくわかりやすくお伝えできるように編集いたしました。本報告書を通じてリケンテクノスグループの取り組みをご理解いただくとともに、本報告書への率直かつ忌憚のないご意見を賜りますようお願いいたします。

本報告書取扱部署代表者
取締役 専務執行役員 管理本部長 兼 経営企画本部長：入江 淳二
編集メンバー
品質保証本部 マネジメントシステム部：井上 宏一、笠原 康生
経営企画部 企業ブランディンググループ：吉岡 さやか、大林 美桜

リケンテクノス ウェイ

私たちは科学の力で
豊かさ、安心、快適を創り出す
チャレンジメーカーです
独創的で卓越した
樹脂素材の配合加工技術で
企業と人と社会に
新たな価値と喜びを提供し続けます

We are a challenger
that harnesses the power of science
to improve the quality of life
and create a safe, affluent society.
We continuously provide new value and satisfaction
to people, companies and society
through our original and superior formulations
and manufacturing technologies of multiple resins.

お問い合わせ先

この報告書の内容に関するご意見、お問い合わせは下記で承っています。

リケンテクノス株式会社 経営企画部

〒101-8336

東京都千代田区神田淡路町二丁目101番地 ワテラスタワー

TEL: 03-5297-1631 FAX: 03-5297-1660

ホームページ

<https://www.rikentechnos.co.jp>

2019年9月発行

